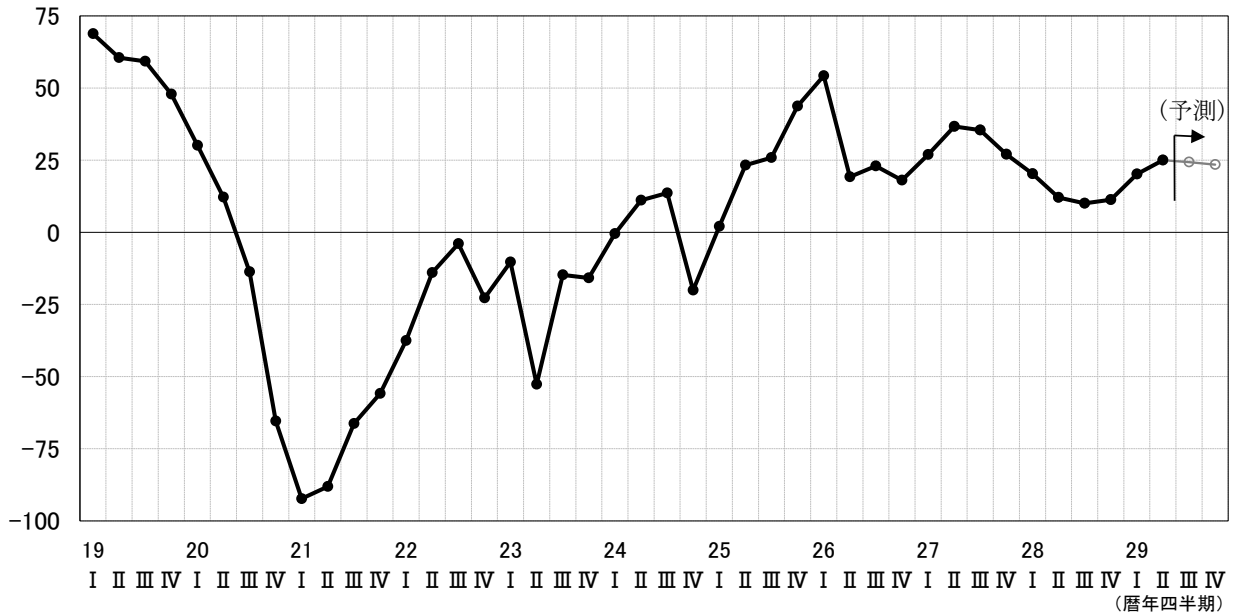


中部圏の景況感の現状（４～６月期）と見通し（10～12月期まで）

〔今回のポイント〕

中部圏の景況判断



4～6月期の中部圏の景況判断(「良い」－「悪い」社数構成比)は、3期連続で改善し、25.0(前期比+4.8ポイント)となった。前回予測も上回った。

項目別では、業績判断が4期ぶりの悪化、設備投資計画判断は3期ぶりの悪化となった。一方で、機械設備水準判断は4期連続で改善し、2期連続のプラス圏内となった。

業種別では、全ての業績判断D. I. が悪化した中で、建設業は3期連続の悪化となった。

景況判断の先行きについては、米国景気や中国景気の先行きへの懸念が期待を上回ることに加え、地政学上のリスクの高まりから「海外の政情不安」が懸念されるなど、来期の景況感は悪化すると見られている。

為替相場については、「企業が想定するレート」と「適切な水準」がともに円高方向に振れ、ギャップは横ばいとなった。

原油価格(通関CIF)については、「企業が想定する価格」の平均が\$57.5と、前回調査から上昇した。

わが国の景気の現状については「概ね横ばい」の割合が6割近くと変わらず、「緩やかに拡大」がわずかに増加した。

〔調査の概要〕

◎調査時期 : 平成29年4月25日～5月23日

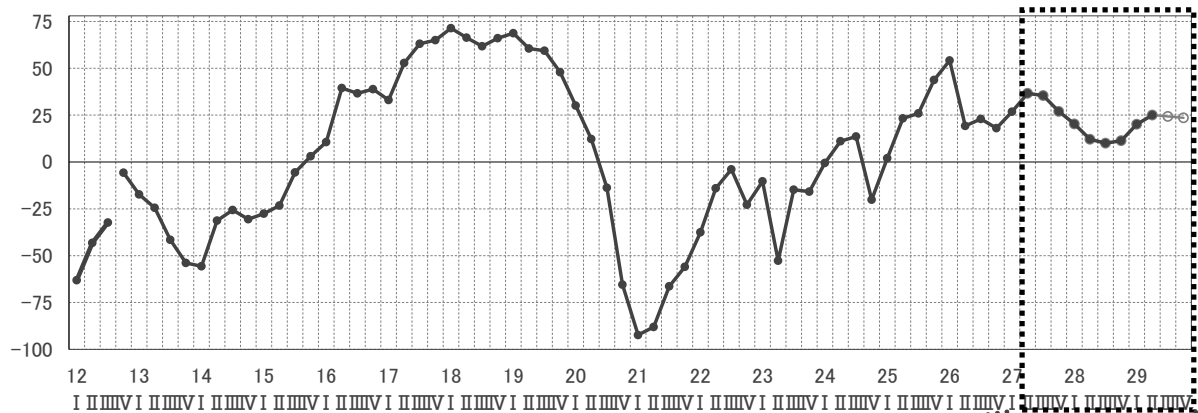
◎対象 : 法人会員代表者等

◎回答 : 248社 (回答率:36.9%、対象672社)

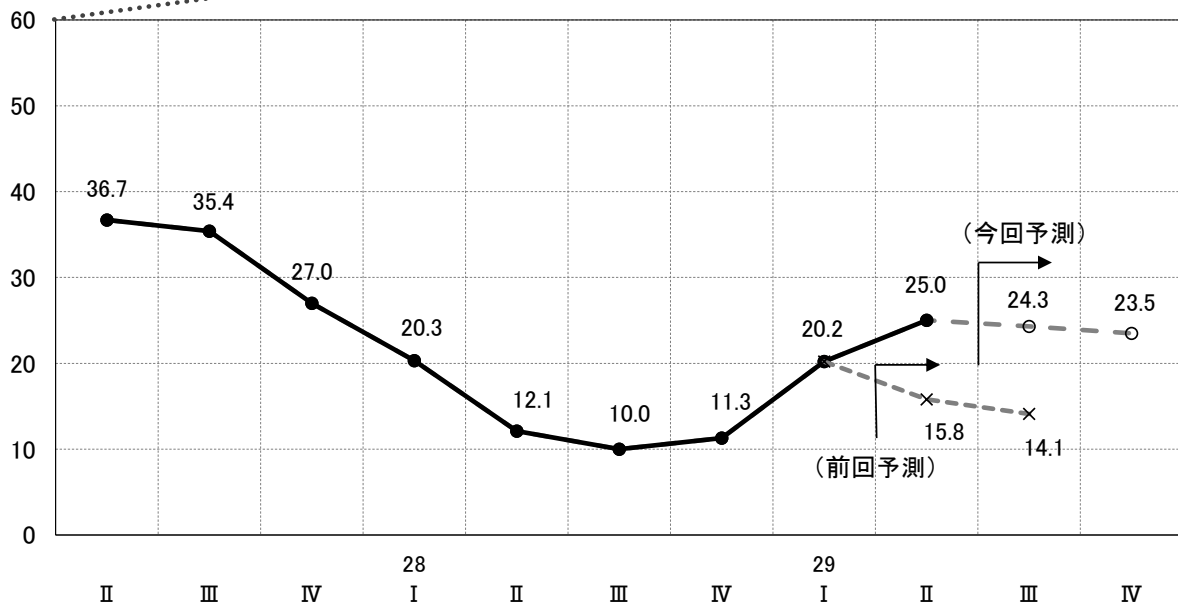
中部圏の景況感

(1) 中部圏の景況判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



[現状] 中部圏の景況判断は、3期連続で改善し、前回予測も上回った。

[今後] 来期以降はわずかながら悪化するものと見られている。

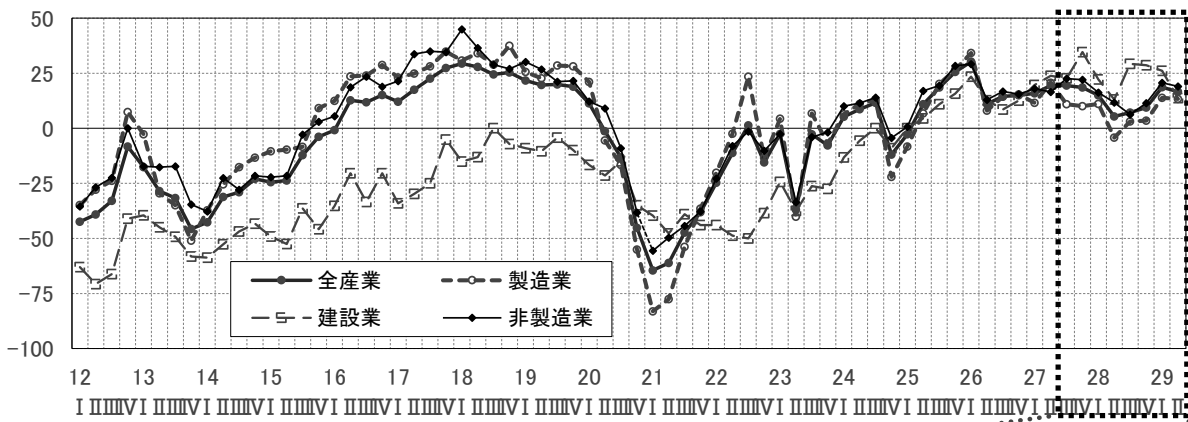
【景況判断(D. I.)の内訳】

	1 : 悪い	2 : さほど良くない	3 : 良い	D.I.(良い-悪い)
[3月]	0.8%	78.2%	21.0%	20.2
[今回]	0.4%	74.2%	25.4%	25.0

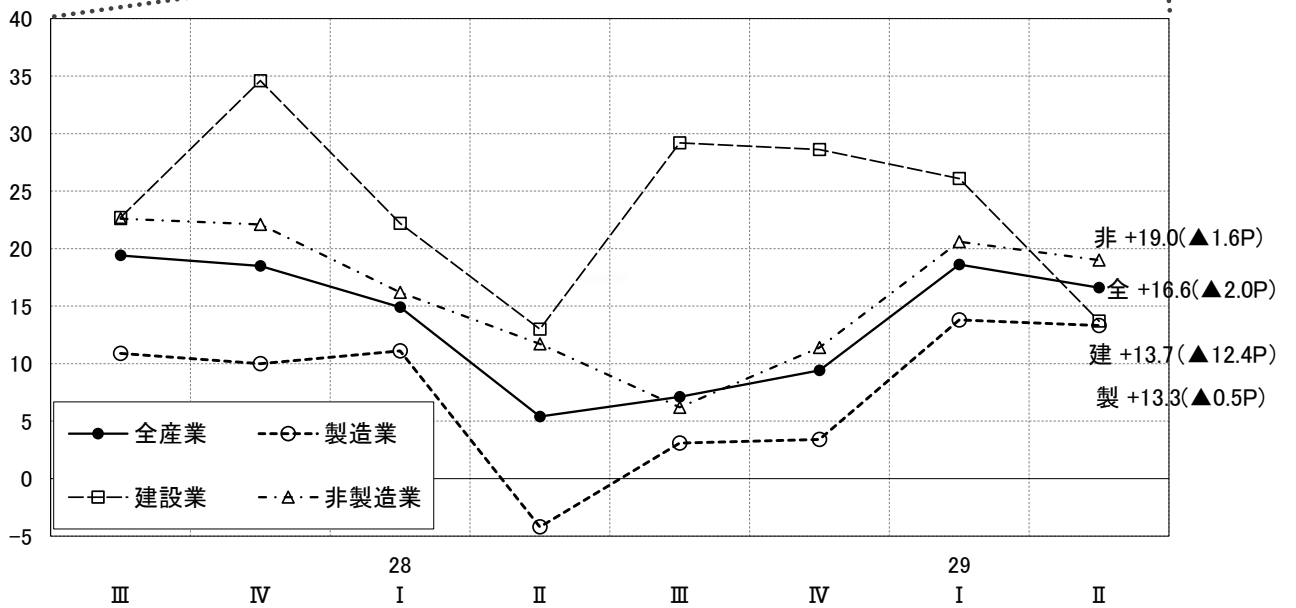
+ 4.8P

(2) 業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



()は前回差

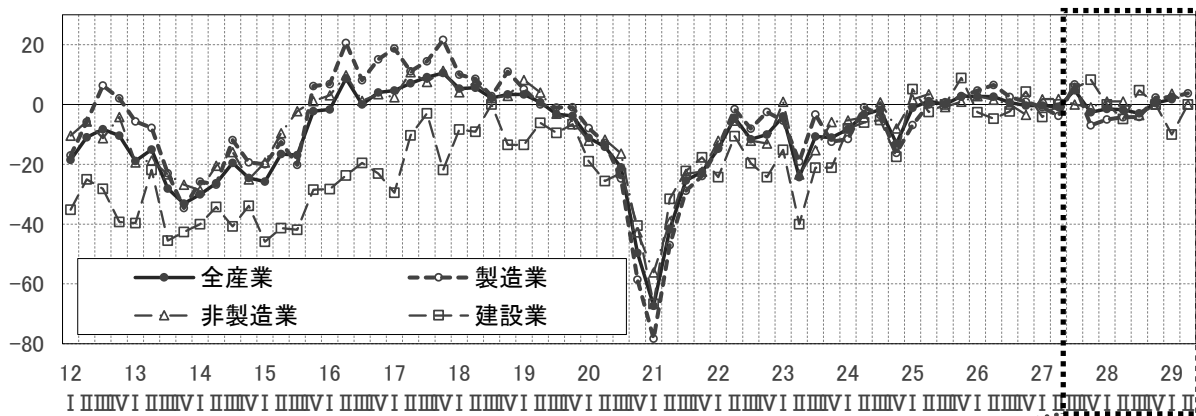
業績判断は、全産業で4期ぶりの悪化となった。
業種別では、全ての業種で悪化し、建設業は3期連続の悪化となった。

【業績判断(D. I.)の内訳】

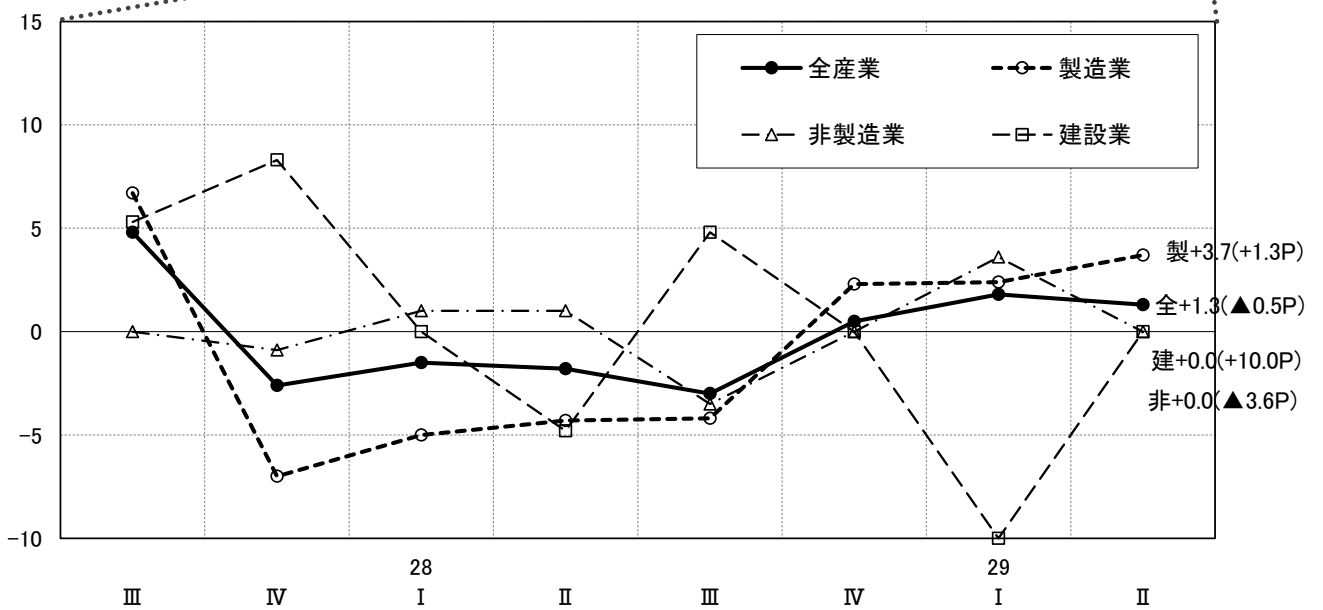
	1:悪い	2:さほど良くない	3:良い	D.I.(良い-悪い)
[3月]	4.6%	72.2%	23.2%	18.6
[今回]	6.2%	71.0%	22.8%	16.6

- 2.0P

(3) 設備投資計画判断 [現況判断(3ヵ月前と比較して)：「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



設備投資計画判断は、全産業で3期ぶりの悪化となった。
業種別では、製造業や建設業が改善した一方で、非製造業は3期ぶりに悪化した。

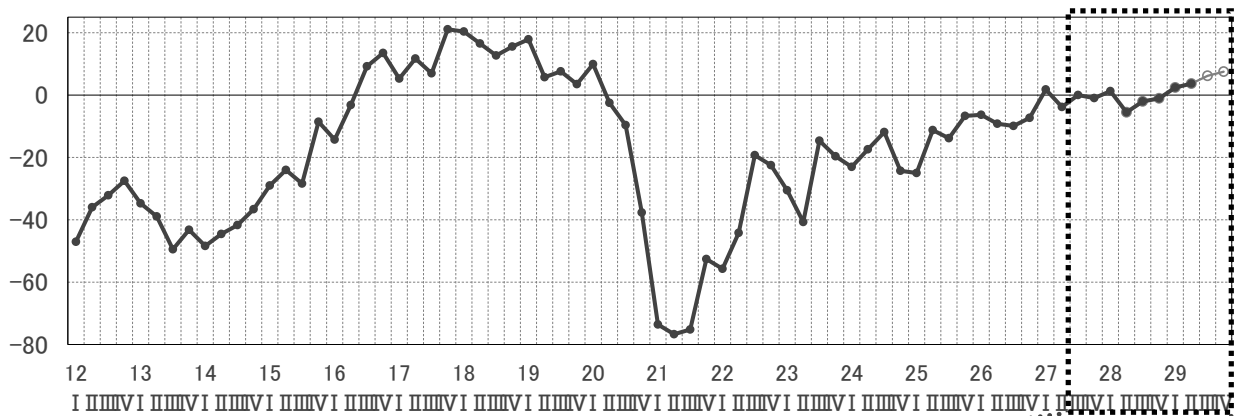
【設備投資計画判断(D. I.)の内訳】

[3月]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	6.0%	86.2%	7.8%	1.8
[今回]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	5.4%	87.9%	6.7%	1.3

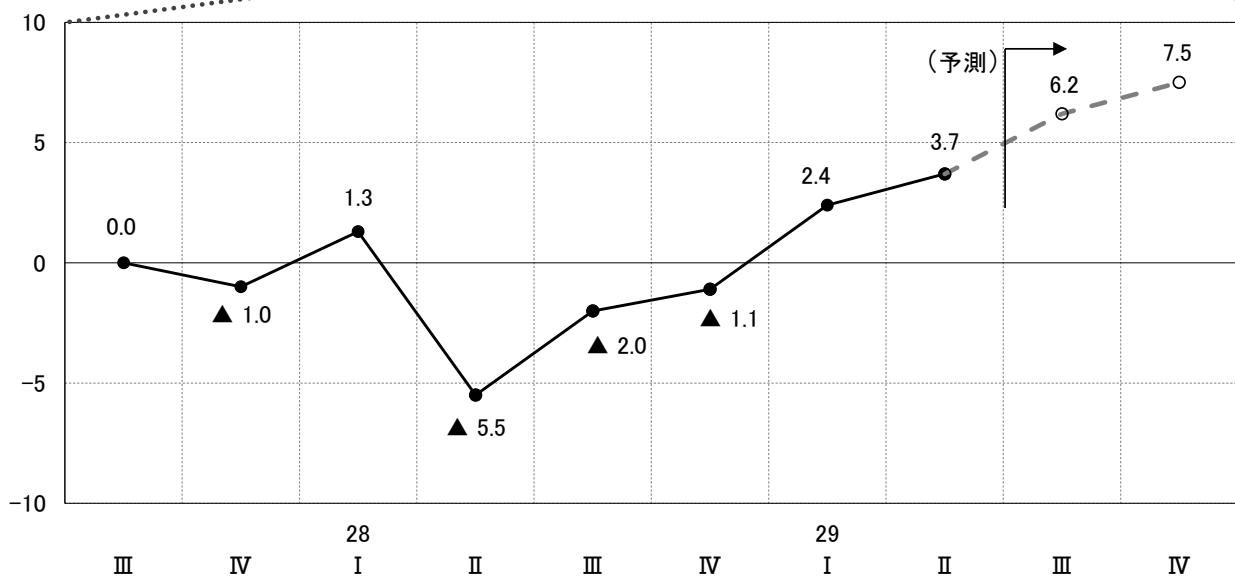
- 0.5P

(4) 機械設備水準判断 (製造業)

[現況判断・見通し: 「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] 機械設備水準判断は4期連続で改善し、2期連続でプラス圏内となった。

[今後] 来期以降も改善するものと見られている。

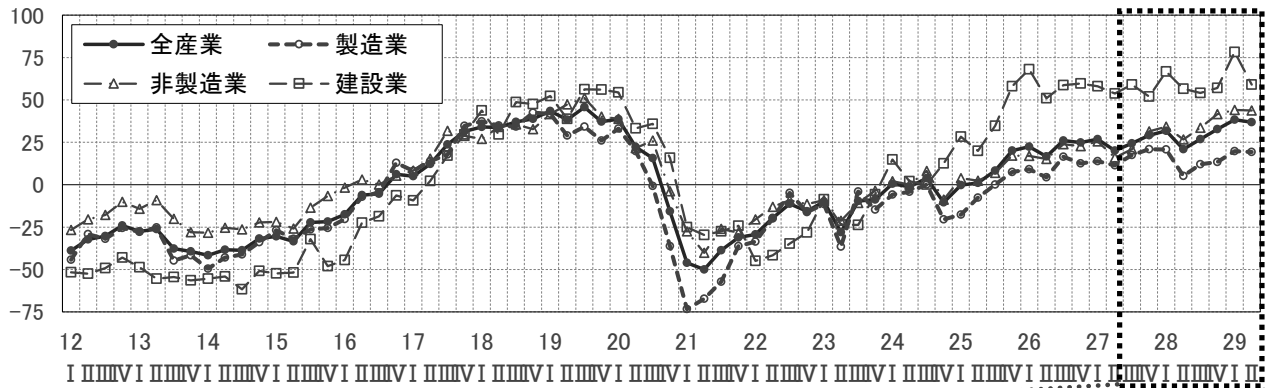
【機械設備水準判断(D. I.)の内訳】

[3月]	1:過剰 10.7%	2:適正 76.2%	3:不足 13.1%	D.I.(不足-過剰) 2.4
[今回]	1:過剰 4.9%	2:適正 86.4%	3:不足 8.6%	D.I.(不足-過剰) 3.7

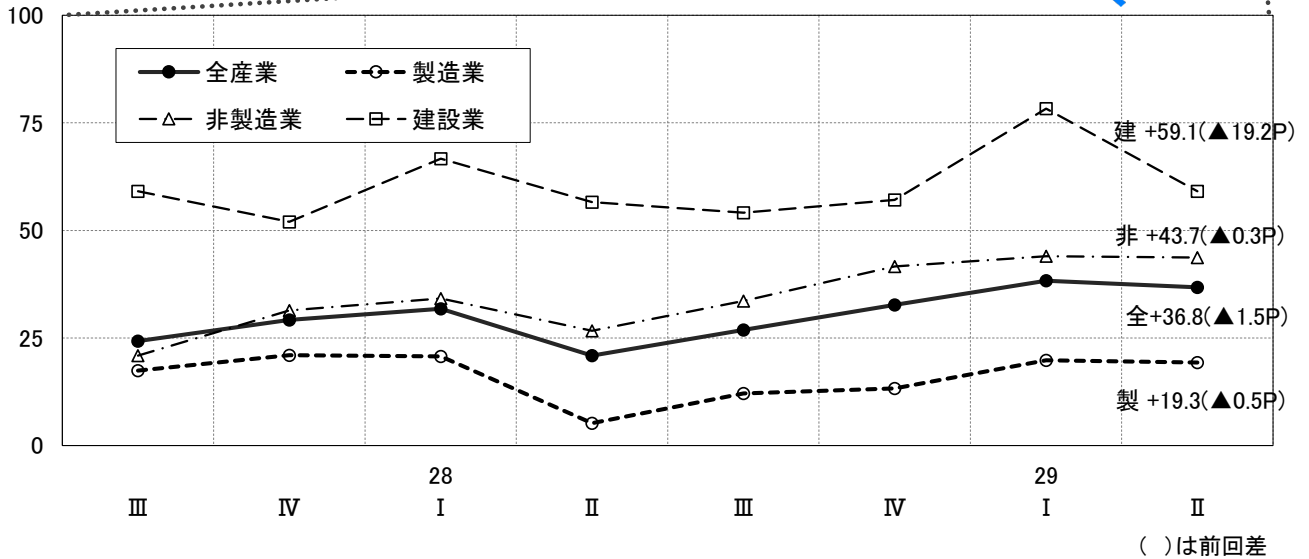
+ 1.3P

(5) 雇用判断

[現況判断:「不足」-「过剩」]



【最近の動き】



()は前回差

人手不足感は、全産業で減少した。業種別では、建設業の不足感が前期に比べ、緩和した。

【雇用判断(D. I.)の内訳】

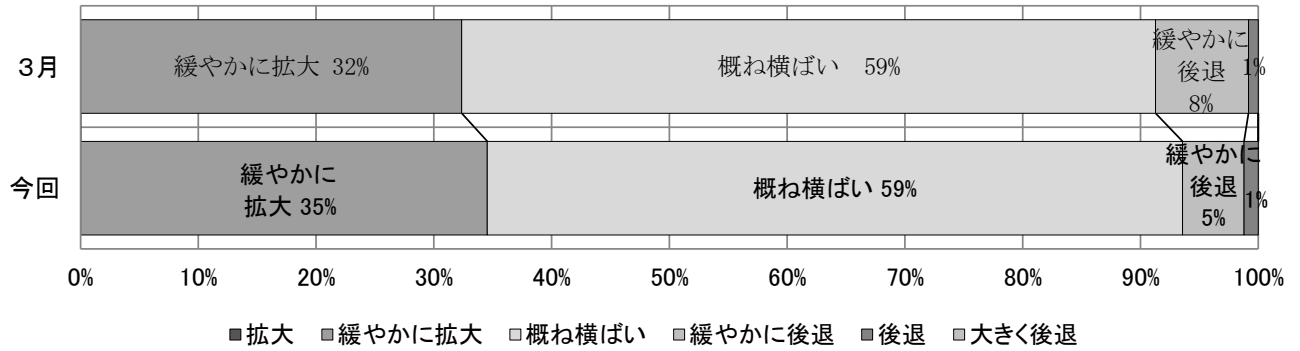
全産業 [3月]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	← -1.5P
	1.7%	58.3%	40.0%	38.3	
[今回]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	←
	2.9%	57.3%	39.7%	36.8	
製造業 [3月]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	← -0.5P
	3.5%	73.3%	23.3%	19.8	
[今回]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	←
	3.6%	73.5%	22.9%	19.3	
非製造業 [3月]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	← -0.3P
	0.8%	54.4%	44.8%	44.0	
[今回]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	←
	2.2%	51.9%	45.9%	43.7	
建設業 [3月]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	← -19.2P
	0.0%	21.7%	78.3%	78.3	
[今回]	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I.(不足-过剩)	←
	4.5%	31.8%	63.6%	59.1	

フォーカス①

日本経済の現状認識と経済政策について

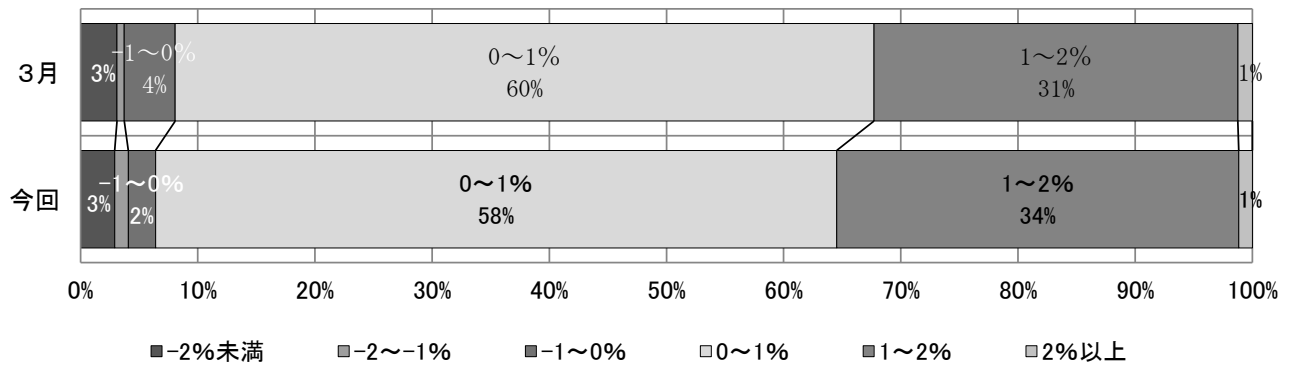
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気の現状について



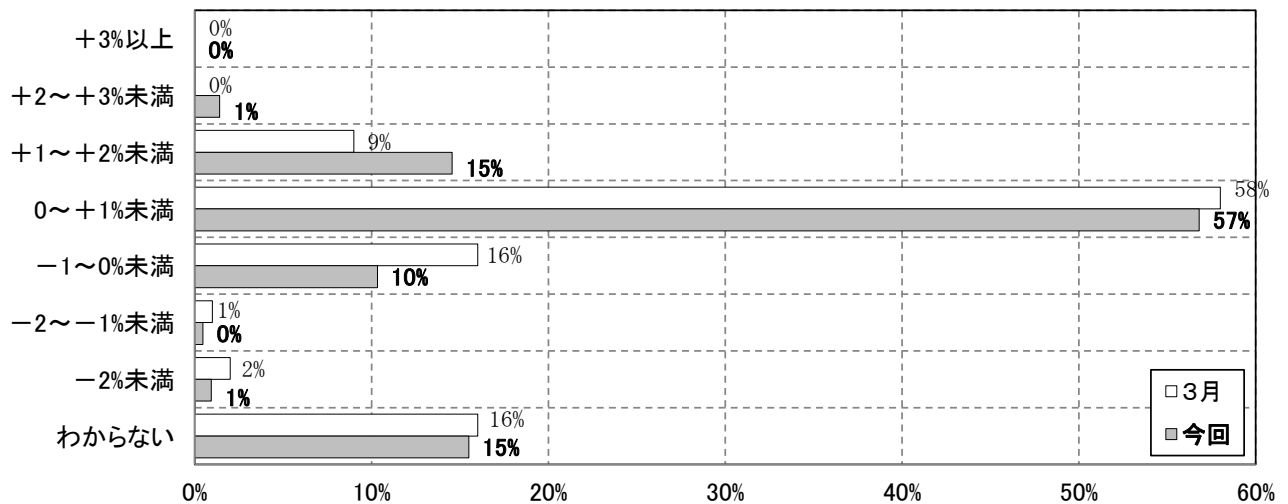
「緩やかに後退」が減少する一方で、「緩やかに拡大」がわずかに増加した。

(2) 平成29年度の経済成長率（GDP）見通しについて



「1%未満」の割合が減少し、「1~2%未満」の割合がわずかに増加した。

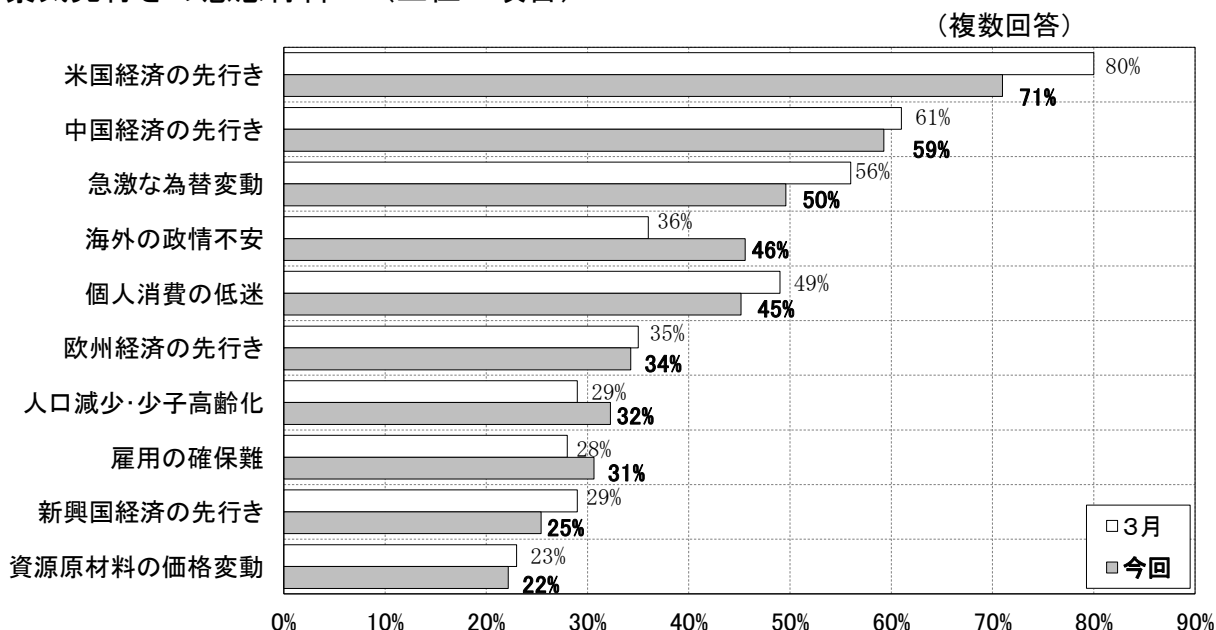
(3) 平成29年度末の物価見通しについて



「-1~0%未満」の物価上昇率を予想する回答の割合が減少し、「+1~+2%未満」の物価上昇率を予想する割合が増加した。

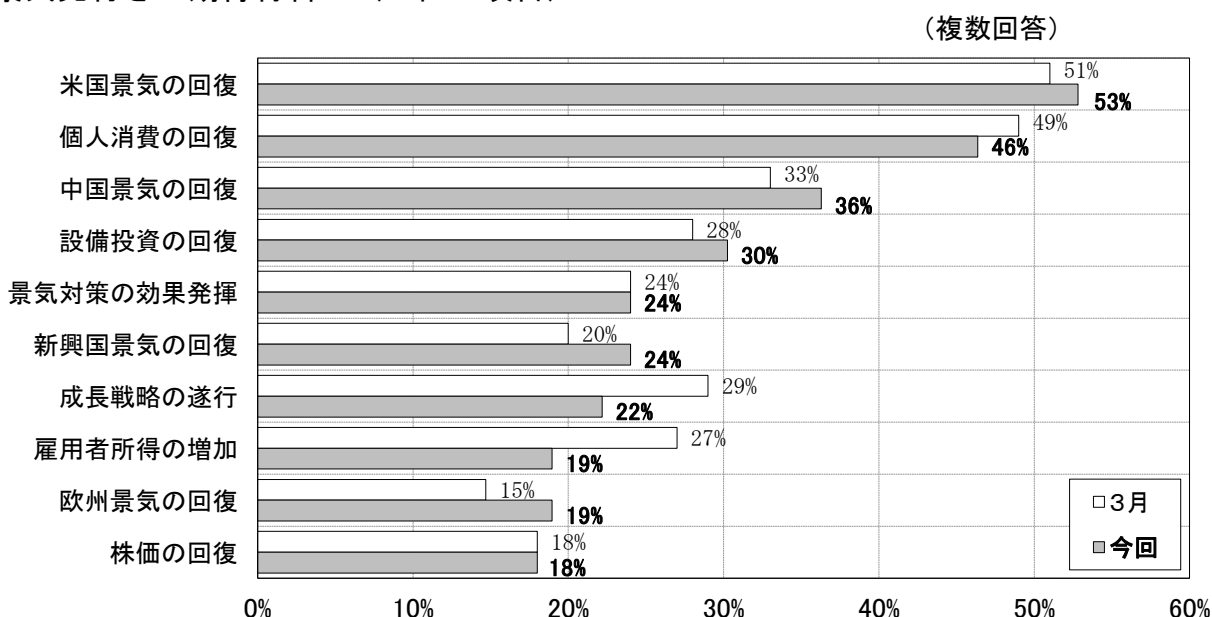
2. 景気先行きの懸念材料・期待材料と経済政策への期待について

(1) 景気先行きの懸念材料 (上位10項目)



「米国経済の先行き」、「中国経済の先行き」、「急激な為替変動」、「海外の政情不安」への懸念が上位を占めた。特に地政学上のリスクの高まりなどから「海外の政情不安」を懸念する企業が増加した。

(2) 景気先行きの期待材料 (上位10項目)

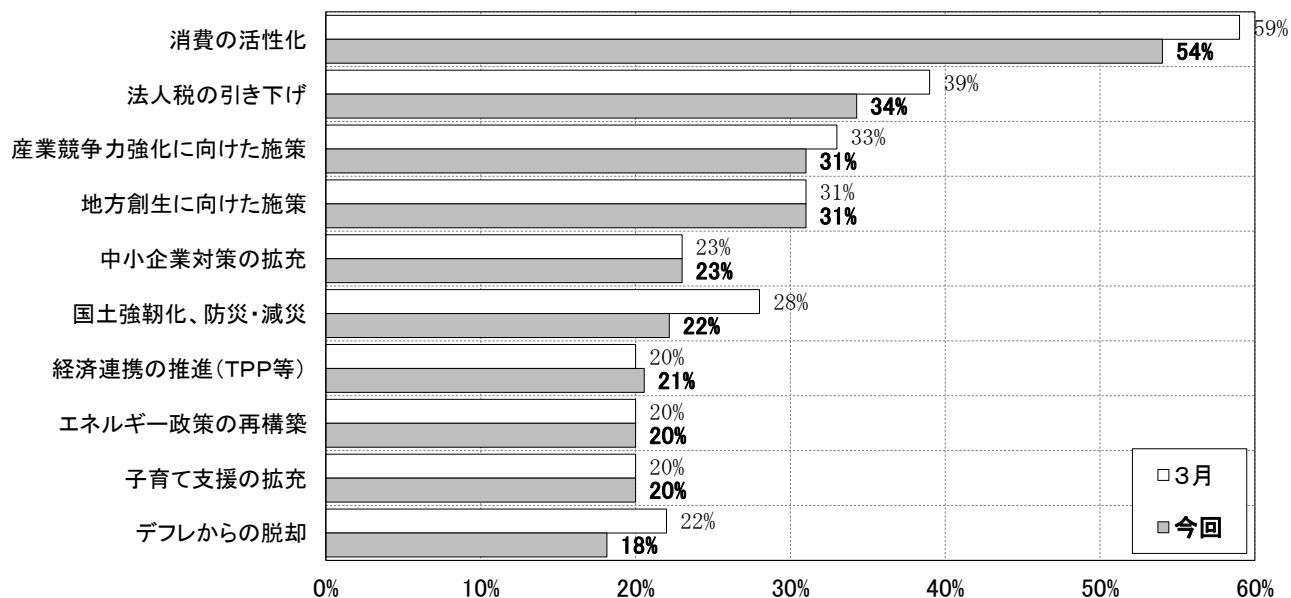


「米国景気の回復」への期待が最も多く、次いで「個人消費の回復」、「中国景気の回復」、「設備投資の回復」に対する期待が上位を占めた。

また、「米国景気の回復」、「中国景気の回復」、「設備投資の回復」、「新興国景気の回復」、「欧州景気の回復」に期待する企業が増加した。

(3) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて (上位10項目)

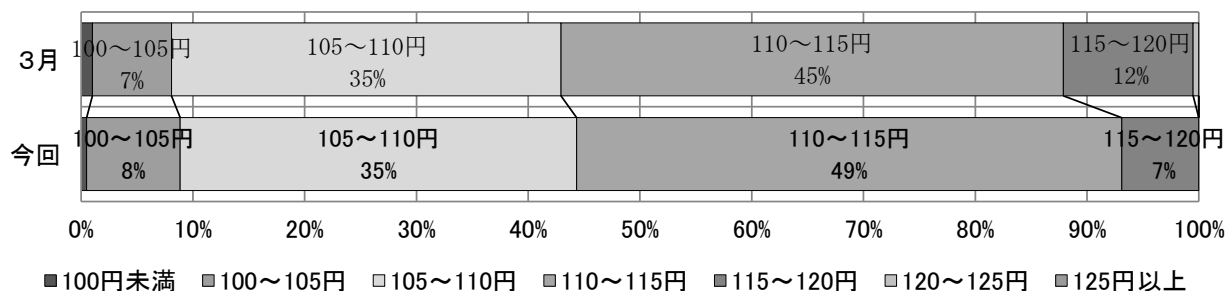
(複数回答)



「消費の活性化」、「法人税の引き下げ」、「産業競争力強化に向けた施策」、「地方創生に向けた施策」への期待が前回と変わらず上位を占めた。

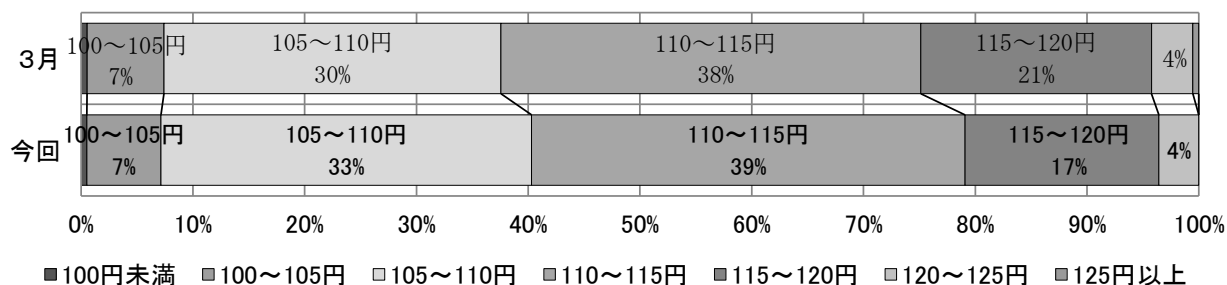
フォーカス② 為替レートについて

(1) 平成29年度上期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



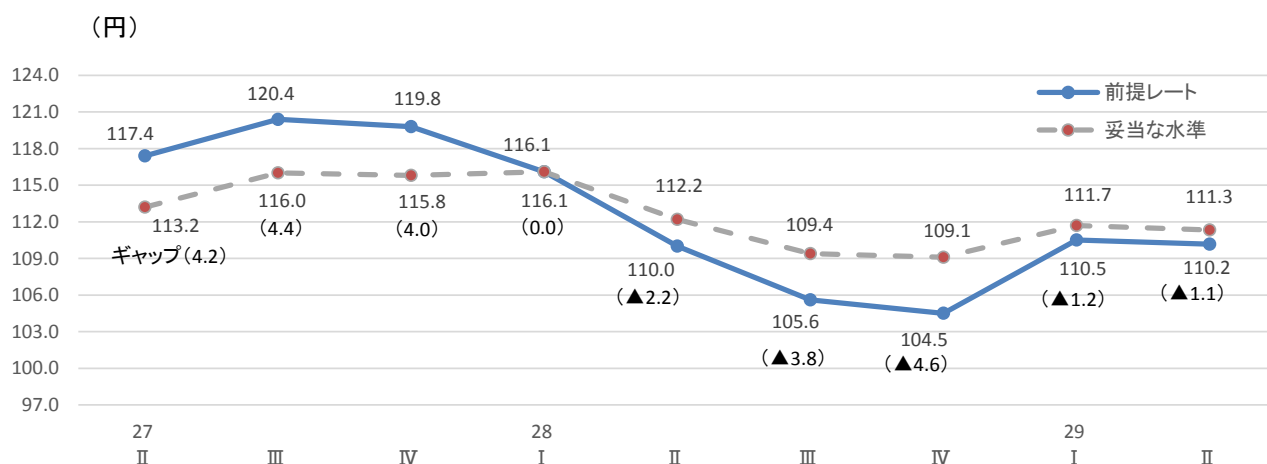
「115～120円」が減少した一方で、「110～115円」がわずかに増加した。

(2) 為替レートの妥当な水準 対ドル・円レート



「105～115円」を妥当とする回答が全体の7割超となった。

(3) 業績予想の前提レートと妥当な水準の推移



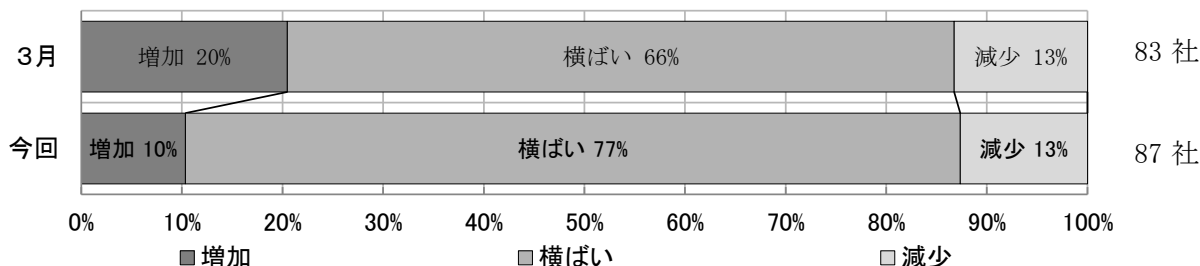
「業績予想の前提レート」と「妥当な水準」がともにわずかに円高方向に振れ、ギャップはほぼ横ばいとなった。

(注) 数値は単純平均値
ギャップ()は「前提レート」－「妥当な水準」の値

フォーカス③ 輸出の増減について

(1) 貴社の輸出の増減について（輸出を行う企業のみを対象）

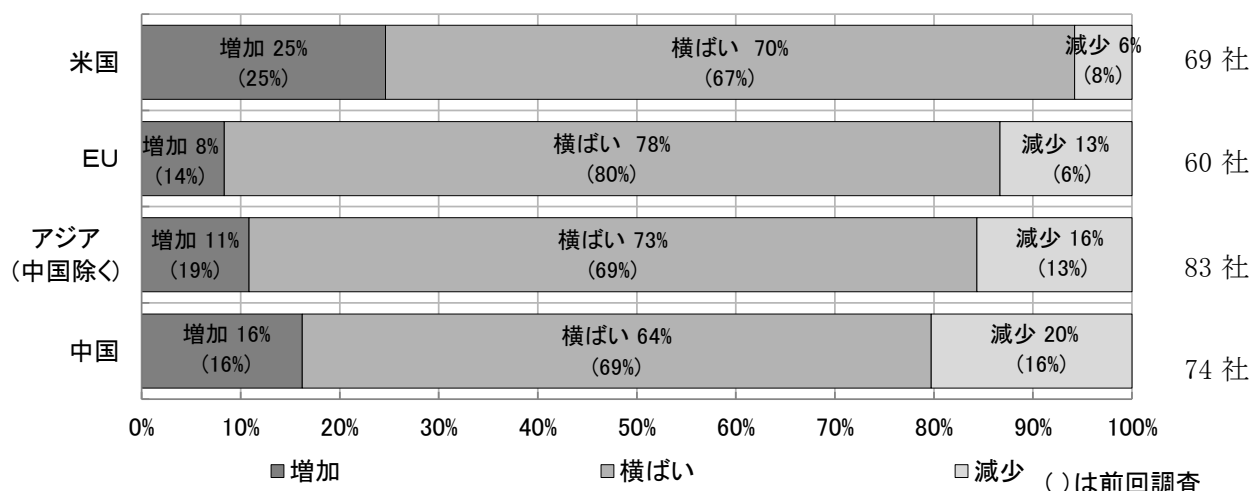
(回答社数)



前回と比較すると、「横ばい」の割合が上昇し、「増加」の割合が低下した。

(2) 地域別輸出の増減

(回答社数)

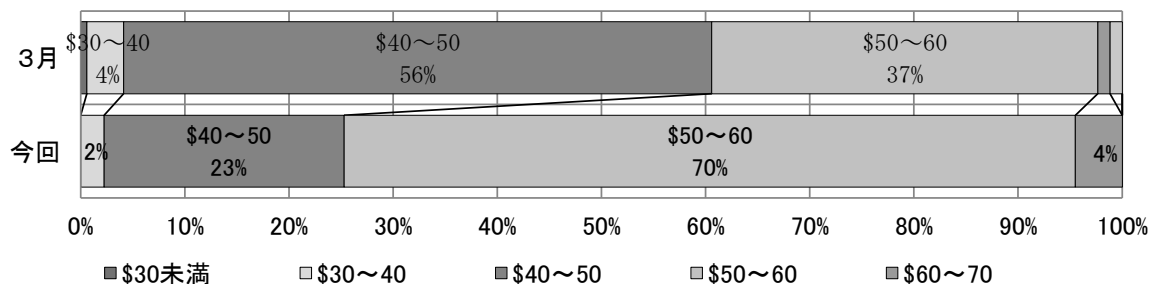


全地域で「横ばい」が最も多い。

前回と比較すると、EU、アジア、中国向けで減少方向の変化が見られる。

フォーカス④ 原油価格について

(1) 平成29年度上期の業績予想の前提 原油価格〔通関（CIF）〕



「\$40~50」が減少し、「\$50~60」が大幅に増加した。

前回と比較し、予想価格は上昇した。

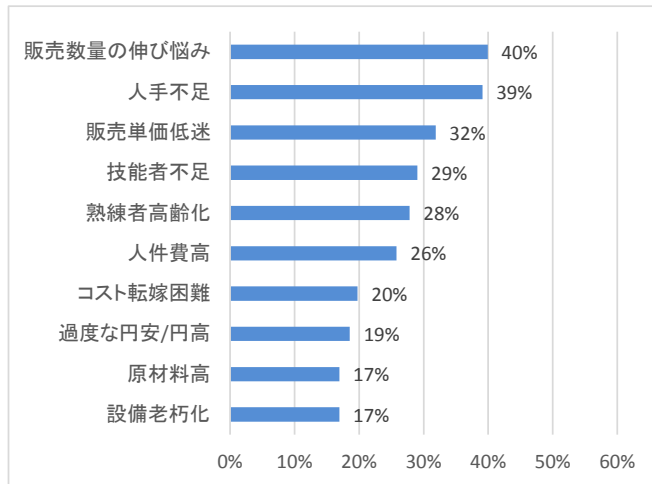
(参考)単純平均値 今回: \$ 57.5 前回: \$ 53.6

フォーカス⑤

経営上の課題について

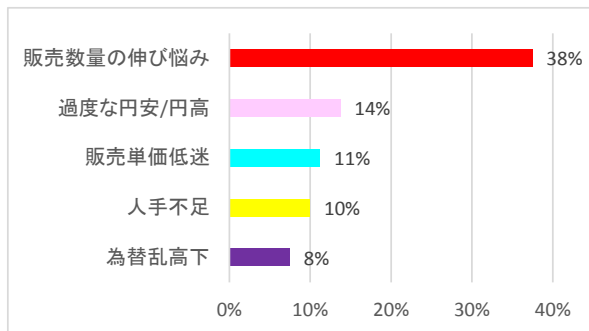
(1) 経営上の課題に該当するもの（全産業 上位10項目）

（複数回答）

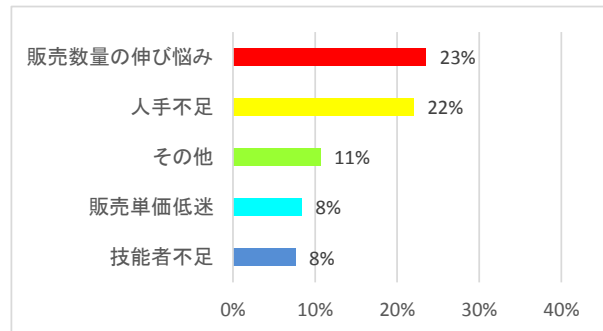


(2) そのうち最も大きな課題（上位5項目）

・製造業

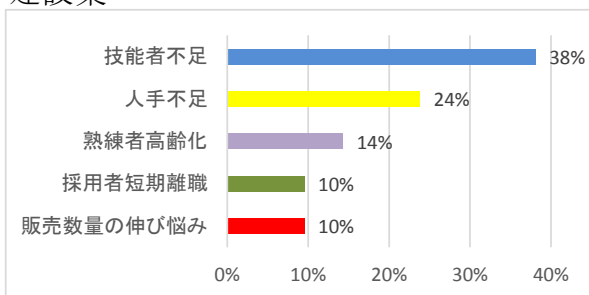


・非製造業



◆その他: 金利低迷、人口減少、少子高齢化など

・建設業



経営上の課題は、全産業では「販売数量の伸び悩み」、「人手不足」、「販売単価低迷」の順に多い。

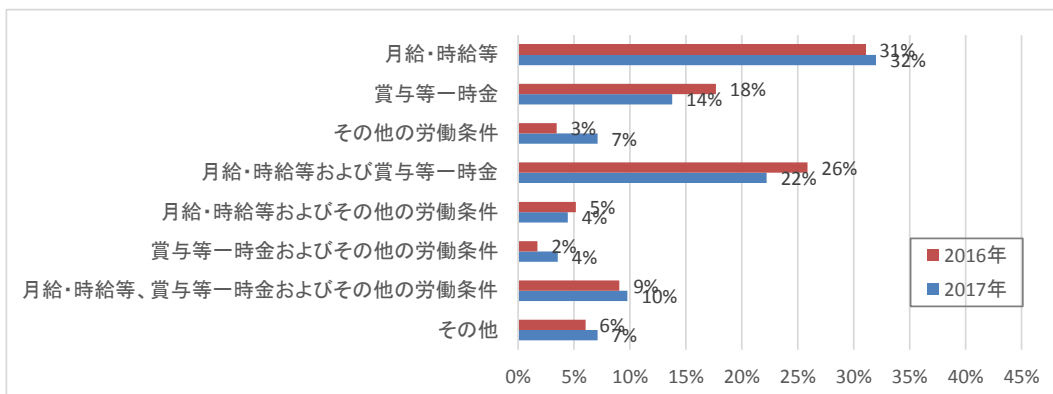
そのうち最も大きな課題については前回と同様に、製造業、非製造業で「販売数量の伸び悩み」、建設業では「技能者不足」が最多となっている。

また、非製造業では「技能者不足」が「消費者の購買意欲低迷」に代わって上位5項目に入った。

フォーカス⑥

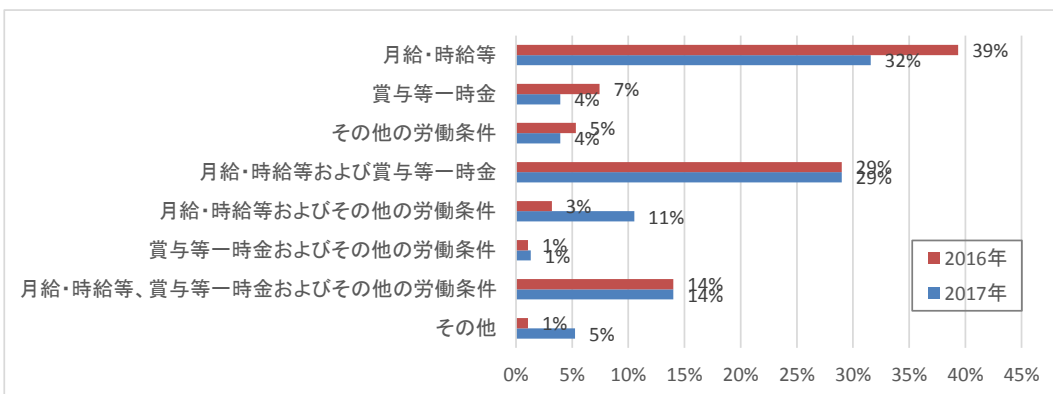
賃上げ等の実施について

(1) 全産業

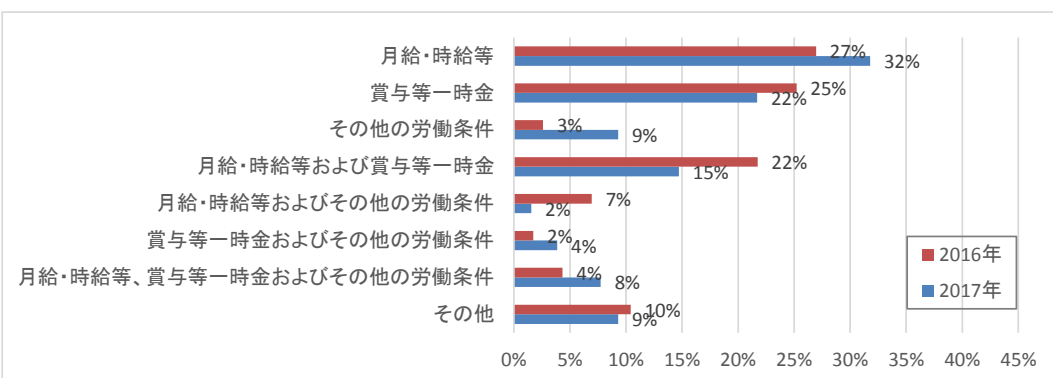


◆その他：「定期昇給の維持」、「実施検討しない」など

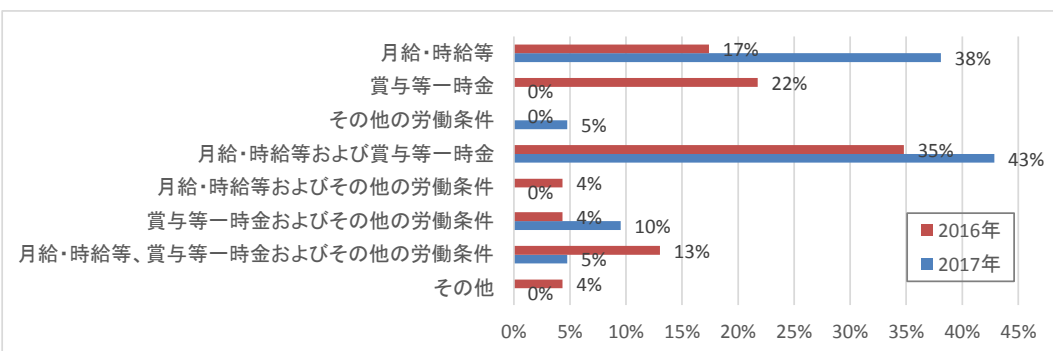
(2) 製造業



(3) 非製造業



(4) 建設業



賃上げ等のやり方について「実施ないしは検討」と回答された選択肢を見ると、製造業と非製造業で「月給・時給等」によるものが、建設業では「月給・時給等および賞与等一時金」によるものが昨年と同様に最も多い。

全産業において賃金以外の労働条件を改善した企業が増加した。

<参考> 時系列データ

		平成28年			平成29年	
		Ⅱ (4-6月)	Ⅲ (7-9月)	Ⅳ (10-12月)	Ⅰ (1-3月)	Ⅱ (4-6月)
中部圏の景況感						
景況判断(D. I.)		12.1	10.0	11.3	20.2	25.0
業績判断(D. I.)	全産業	5.4	7.1	9.4	18.6	16.6
	製造業	-4.2	3.1	3.4	13.8	13.3
	非製造業	11.7	6.2	11.4	20.6	19.0
	建設業	13.0	29.2	28.6	26.1	13.7
設備投資計画判断(D. I.)	全産業	-1.8	-3.0	0.5	1.8	1.3
	製造業	-4.3	-4.2	2.3	2.4	3.7
	非製造業	1.0	-3.5	0.0	3.6	0.0
	建設業	-4.8	4.8	0.0	-10.0	0.0
機械設備水準判断(D. I.)		-5.5	-2.0	-1.1	2.4	3.7
雇用判断(D. I.)	全産業	20.9	26.9	32.7	38.3	36.8
	製造業	5.2	12.1	13.3	19.8	19.3
	非製造業	26.7	33.6	41.6	44.0	43.7
	建設業	56.6	54.1	57.1	78.3	59.1
景気の現状とGDP見通し(フォーカ①)						
景気の現状	拡大	0%	0%	0%	0%	0%
	緩やかに拡大	12%	10%	11%	32%	35%
	概ね横ばい	65%	71%	69%	59%	59%
	緩やかに後退	18%	15%	17%	8%	5%
	後退	4%	3%	3%	1%	1%
	大きく後退	0%	0%	0%	0%	0%
GDP見通し	-2%未満	1%	3%	1%	3%	3%
	-2%~-1%未満	2%	1%	2%	1%	1%
	-1%~0%未満	9%	9%	10%	4%	2%
	0%~1%未満	60%	66%	66%	60%	58%
	1%~2%未満	26%	19%	20%	31%	34%
	2%以上	1%	2%	1%	1%	1%
為替レート(フォーカ②)						
業績予想の前提(対ドル・円レート)						
95~100円未満(平成28年Ⅱ期から100円未満)		0%	0%	1%	1%	0%
100~105円未満(平成27年Ⅳ期から平成28年Ⅰ期は105円未満)		8%	56%	64%	7%	8%
105~110円未満		48%	31%	29%	35%	35%
110~115円未満		31%	8%	5%	45%	49%
115~120円未満		11%	4%	1%	12%	7%
120~125円未満		1%	0%	0%	1%	0%
125~130円未満(平成28年Ⅱ期から125円以上)		1%	0%	0%	0%	0%
130円以上		-	-	-	-	-
想定レートと妥当な水準(単純平均値 円/\$)						
想定レート		110.0	105.6	104.5	110.5	110.2
妥当な水準		112.2	109.4	109.1	111.7	111.3
輸出の増減(フォーカ③)						
輸出の増減	増加	8%	16%	11%	20%	10%
	横ばい	71%	67%	72%	66%	77%
	減少	21%	17%	17%	13%	13%
米国	増加	16%	21%	16%	25%	25%
	横ばい	68%	65%	72%	67%	70%
	減少	15%	15%	12%	8%	6%
EU	増加	8%	10%	8%	14%	8%
	横ばい	80%	73%	79%	80%	78%
	減少	13%	17%	13%	6%	13%
アジア(除く中国)	増加	10%	14%	10%	19%	11%
	横ばい	66%	71%	74%	69%	73%
	減少	23%	14%	16%	13%	16%
中国	増加	9%	9%	19%	16%	16%
	横ばい	56%	61%	59%	69%	64%
	減少	35%	30%	23%	16%	20%